

社会体験研修を実施して

小 西 基 貴 （長野県上伊那農業高等学校）

この研修は、採用から10年目以上になる教諭が地域の企業や社会福祉施設等での体験研修を通して社会での視野を広げるとともに、地域との連携のあり方について考えることを目的としています。研修施設に信州大学附属図書館農学部図書館（以下、農学部図書館）を選定した理由は、司書教諭の資格を有していること、勤務校の生徒の通学圏であること、以上2点となります。また、農学部図書館は令和4年度から大規模な改修工事を実施したことから、本校との連携において新しい取り組みが期待できることもその理由として挙げられます。

次に2日間の研修内容を以下にまとめます。

表 1. 研修内容

令和5年8月4日（金）（1日目）	令和5年8月9日（水）（2日目）
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、館内見学 ・大学図書館の業務概要について ・本校との連携に関する意見交換 ・蔵書点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・文献検索ガイダンス体験 ・学習支援に関する意見交換 ・図書の展示作成作業 ・研修のまとめ、館内意見交換

（1日目）大学図書館ならではの業務として学術情報オンラインシステムについて学びました。通常、研究者の発信は有料の学術雑誌に掲載されるため、特定の機関のみの研究公開に留まってしましますが、大学図書館が著作権等の対応を含め、それらを広く一般に公開する機関リポジトリの実務を担うことで研究者や大学の知名度を高くすることや、企業・地域等、多くの研究者との連携を強めることを目的としています。また、大学で扱う学術雑誌、特に洋書は電子ジャーナルとしてオンラインでの閲覧が主流となっている点も私が学生の頃と大きく異なる点であったと思います。このことから、本校と大学図書館との連携について高校図書館とは役割や業務が大きく異なるという点で調査対象に対する興味・関心や知識の探究等、生徒の学びの更なる可能性が期待できるため、その必要性を強く感じました。

（2日目）信州大学附属図書館中央図書館の学習支援を担当する先生方とのオンライン意見交換を行いました。この学習支援とは、図書館を開催場所として、講義で分からない点を支援することやレポート支援を行うことを目的としています。話し合いの中では、より多くの学生にこの支援を活用してもらうことが課題として挙げられました。大学は高校とは異なり自主的な行動が認められるため、学生が抱える課題も多様ではないかと思います。そこで、アンケートや意識調査等を通じて支援の幅を広げ、より学生のニーズにあった支援がこれから必要になることを感じ

ました。

農学部図書館の皆様は本校に対する要望やイメージ等について伺いました。本校との連携をこれからも進めてほしいことや情報発信（HP等）に力を入れていること、生徒が積極的に地域との取り組みを行っていること等が挙げられました。このような貴重なご意見を本校の教職員で共有し、今後の学校運営に生かしていきたいと思ひます。

最後に、2日間の研修にあたり農学部図書館の職員の皆様には、大変お忙しい中、丁寧に対応していただきました。将来、司書教諭として校務に携わるときには、この研修で学んだ知識や経験を生かしていきたいと思ひます。本当にありがとうございました。